

真の石炭政策の確立を

夕張へ、光よとどけ

頌春



今年は十二支で戌(いぬ)の年。昔の時刻で午後8時ごろ。方角は西北西をさしました。
吠える犬は弱いといいますが、この犬はなかなかの根性をもっています。
画を描いたのは27分会(港務)の技術係・姉川良男さん。画歴は長く、現在は大牟田総合美術展の審査員です。

夕張・惨

すぎもと かずお

夕張岳をのぞむ
夕張山地は 白
空は灰色 吹雪
この夏の大水害の傷あとを残し
夕張川は黄土色。

二十七万立方メートルのガス
四千五百立方メートルの岩石
うちつけられた からだ
吹っとんだ鉋帽
ようやく逃れながら
ガス室さながらの坑道に
めらめらと
火焰がひろがり
黒煙をあげる 排気口。

つめたい秋雨が 落ちる
六月 三池の落盤のときも 雨。

「お命をいただきたく存じます」
うち殺し 焼き
注がれる夕張川の 濁水。

死を想定した出炭計画は
たしかに いのちを奪った
これほど無惨な死があるか
首が胴から離れないように
肉が骨から離れていいわけはない
見分けのつかぬ からだ
白骨。

ヤマの復興
エネルギー政策の確立をねがう
日本労働者の固いこぶしは
よどみ 濁りをおしのけ
清冽な 源流を求める。

石狩平野をよぎり
吹雪の夕張山地へ
太陽の光よ とどけ。